

# 市民文芸 応募方法

一人俳句三句、短歌三首、川柳三句以内。はがきに作品・住所・氏名・応募する壇名をはっきり書き、〒989-0257白石市字互理町37-3、白石市情報センターへ。短歌、俳句、川柳の併記は不可。毎月15日締め切り。Eメールでも応募できます。(koho@city.shiroishi.miyagi.jp)

## 歌壇

岩崎 聰之介 選

足萎えて寺の坂登れぬ此の盆は亡母よ赦しませ  
迎火を焚く 平間 久子  
ひとつまみ茗荷入りたるなめこ汁が秋をかを  
らす地藏まつりに 八嶋 正子  
店さきの盛りしぶだうへ蜜蜂の寄りて秋日に  
身を輝かす 川村 静恵  
暑き日の冷茶一服老い夫ははつらつとして鳥  
へ出でゆく 佐藤 とく  
華やかなるものにあらねど仏前にわれの育て  
し花々供ふ 佐藤 ひで  
火打山に登る径々咲く花に励まされつつ頂目  
指す 山岡ゆう子  
仕事終へ鎌を片手に帰るみち虫の音楽しみじ  
みと聞く 大津 重子  
茸好きの友の言ふには風立ちて彼の山々に茸  
香匂ふと 岩松 貞子  
酷暑に耐へ初秋となりて漸くに生くる心地す  
七十路ふたり 山田 濱  
育ち過ぎの胡瓜を洗い組板にのせてうで組み  
何にしようか 阿部みさ子

【評】一首目。杖をついても登れなかつたのであろう。叶わぬ墓参。結句には、深く寂しい人の世の廻る思いが加わる。二首目。秋を満喫させるなめこ汁を実感をこめうまく捉えた。舞台もなかなかいい。三首目。細かく詠んではいけないが、蜜蜂のうごき一つ一つの感じられる歌。

## 俳壇

遠藤 秋尾 選

もつれてはこぼれて白し萩の花 佐藤 周子  
指先に心をのせて踊るなり 山家 弘子  
道草をせずに行けよと流燈に 日下 文

## 柳壇

山田 風流 選

【評】一句目。少しの風にもつれてこぼす白萩を句に。二句目。踊るしぐさにも歴史や物語がある。そんな思いを指先に表現して踊るのである。三句目。我が子の灯籠流しかもしれない。逆縁とは悲しいものです。四句目。咲きこぼれつつ萩の花の盛りを句に。やがて散つてしまふ萩を惜しむ。

【評】一句目。「ドッコイシヨ」自身に声をかけて体を動かす、ユーモラスな老いの日々。二句目。国をあげて深刻なごみ問題。仕分けは年々細分化、頭の体操に適。三句目。虫食いの野菜は無農薬の証左、親心は都会暮らしの娘へ孫へ。猛暑も去り、読書の候です。ご健吟の程を。

咲きこぼれ今が盛りと萩の花 福原 峯子  
ままごとを母を招きし赤まんま 制野 リエ  
遠蔵王休耕田の秋桜 岩沢 伍峯  
迎え火や静かに時が逆戻り 大庭 良子  
朝霧に墨絵のごとく山浮かぶ 林 完子  
老いの背に一枚重ね夜の秋 川村 静恵  
野草園萩のトンネル抜けてきし 遠藤 忠臣

## よかったね!!

### 宮城県スポ少軟式野球大会・中学生の部で白石シニアが初優勝

8月24日から9月1日にかけて第16回宮城県スポーツ少年団軟式野球交流大会・中学生の部（県スポーツ少年団・河北新報社など主催）が、宮城球場などを会場に開催され、白石シニアチームが初優勝を飾りました。

県内から30チームが参加したこの大会、市内5つの中学校の生徒で構成する白石シニアチームは、決勝で若柳中学校を2-0の完封で破るなど、強豪チームを次々と撃破しての見事な優勝でした。

※白石シニアチームにはいつでも入団できます。☎及川☎26-1209



### 全国農業コンクールで優秀賞 志村浩幸・久美子さん夫妻

7月25日に神戸市で開かれた第51回全国農業コンクール（毎日新聞社・兵庫県主催）に出場した志村浩幸・久美子さん夫妻（福岡深谷）が優秀賞を受賞しました。

養鶏業を営む志村さんは、竹炭粉末を添加した飼料と竹炭層でろ過した水を鶏に与えて、悪臭の軽減に成功しました。

生産された卵は、黄身が盛り上がり、臭みの軽減に加え、愛媛大学の研究により糖尿病の改善予防効果などの可能性も判明し、健康に良い付加価値卵としてのブランド卵を確立しました。

